



徳川家康像

目 次

博物館のあゆみ

平成10年度.....	2
平成11年度.....	8
博物館の名品.....	13

博物館のあゆみ

平成10年度

館 内 業 務

1. 増改築3周年記念特別展「徳川慶喜をめぐる女性たち」
会期＝平成10年10月3日～11月4日
静岡新聞社・SBS静岡放送と共催し、静岡鉄道株式会社・徳川慶喜と明治の静岡推進協議会の特別協力を得て開催。出品内容は徳川慶喜とその母・夫人・祖母及び天璋院・和宮等の遺品・手紙を数多く展示公開し、慶喜と幕末の徳川家の女性の生涯と事績を紹介。出品協力は徳川宗家・(財)徳川黎明会・(財)水府明德会・静岡県立中央図書館等。
2. 平常展
○会期＝平成10年4月1日～6月30日
「久能山東照宮の遺宝展」を開催し、館蔵の刀剣・甲冑・染織・書画及び家康遺品を約120点展示。
○会期＝平成10年7月1日～10月2日
「久能山東照宮の文化財展」を開催し、館蔵の名品約100点を展示。
○会期＝平成11年1月1日～3月31日
「館蔵優品展」を開催し、甲冑・刀剣・染織・漆工及び書画約100点を展示。
3. 館報第15号の発行
○平成10年7月31日、平成8・9年度の博物館のあゆみを報告する「館報第15号」を発行し、関係諸機関に配布。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「徳川慶喜展」

①会期・平成10年4月2日～4月14日

会場・京都高島屋グランドホール

②会期・平成10年4月18日～5月5日

会場・福岡三越美術館

③会期・平成10年5月16日～6月28日

会場・茨城県立歴史館

④会期・平成10年11月10日～11月29日

会場・静岡アート・ギャラリー

①～③に徳川慶喜・家達像（油彩），④に卯花威胴丸，刀長吉，カメラ等17件を出品。

○特別展「徳川慶喜と徳川家の人々」

①会期・平成10年4月11日～6月21日

会場・徳川博物館

②会期・平成10年7月18日～8月30日

会場・徳川美術館

徳川慶喜像，卯花威胴丸，重文太刀正恒，軍帽，鞍下，釣道具等18件を出品。

○特別展「合戦と武具」

会期・平成10年4月25日～5月24日

会場・石川県立歴史博物館

重文歯染具足，金扇馬標，茶絲威具足（秀忠所用），喉輪を出品。

○「最後の将軍徳川慶喜展」

会期・平成10年5月19日～6月21日

会場・松戸市戸定歴史館

菊桐紋絲巻太刀拵，カメラ3台，油絵2面，慶喜書等10件を出品。

○特別展「東照宮の文化財Ⅰ—家康と頼宣—」

会期・平成10年5月26日～6月7日

会場・和歌山県立博物館

重文火縄銃2挺・冠・笏を出品。

○特別展「騎馬・武士のほまれ」

会期・平成10年10月3日～11月4日

会場・名古屋城天守閣

重文鞍橋・鐙，馬面を出品。

○特別展「幕末の大坂城—将軍家茂・慶喜のいた城—」

会期・平成10年10月10日～11月23日

会場・大阪城天守閣

萌葱絲威具足・軍扇（家茂所用），金扇馬標を出品。

○特別展「航路アジアへ！鎖国前夜の東西交流」

会期・平成10年10月10日～11月29日

会場・たばこと塩の博物館

重文洋時計・鉛筆・びいどろ壺を出品。

○特別展「関ヶ原合戦と九州の武将たち」

会期・平成10年10月23日～11月23日

会場・八代市立博物館

東照大権現像（天海賛写）を出品。

○海外展「江戸」

会期・平成10年11月15日～平成11年2月15日

会場・ワシントン・ナショナル・ギャラリー

縹絲威具足（家光所用）、葵紋絲卷太刀拵（吉宗寄進）、黒白羅紗陣羽織（家宣所用）を出品。

○特別展「日本の武器・武具」

会期・平成11年1月1日～1月26日

会場・熱田神宮宝物館

重文太刀三池、国宝太刀真恒、貫衆具足、白絲威具足（家宣所用）を出品。

○特別展「海洋国家・薩摩」

会期・平成11年2月5日～3月7日

会場・鹿児島県歴史資料センター黎明館

重文伽羅・けひきばし・七宝燭台、徳川家康像を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成10年5月21日

会場・静岡県立美術館

平成10年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。松浦館長が会長に再任。

3. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成10年6月18日

会場・静岡県総合社会福祉会館

平成10年度総会が開催され、松浦館長が出席。

4. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成10年7月7日～8日

会場・名古屋王山会館

平成10年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

5. 慶喜ウォーク

期日・平成10年10月11日

SBS静岡放送・茨城放送等の共催により静岡・水戸両市で同時に開催され、当館も特別協力して催事を支援。

6. 資料の複製販売

平成10年10月13日、IEI（インペリアル・エンタープライズ株式会社）に協力して蔵品の菊桐紋絲卷太刀の複製品を販売。尚、同様に徳川慶喜書幅（3種）の複製も（株）大塚巧藝社より同月販売。

庶務報告

1. 平成10年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	3,640	304	547	664	335	52	5,542
5月	4,627	396	1,531	1,097	536	33	8,220
6月	2,661	143	1,102	516	286	67	4,775
7月	2,273	220	469	691	256	25	3,934
8月	3,478	584	339	1,226	371	57	6,055
9月	2,234	150	777	581	334	40	4,116
10月	4,304	142	1,319	1,141	421	207	7,534
11月	4,707	267	1,161	1,000	505	162	7,802
12月	1,789	100	106	367	243	19	2,624
1月	4,285	345	116	494	212	18	5,470
2月	3,164	215	164	337	174	3	4,057
3月	3,477	377	280	436	340	49	4,959
計	40,639	3,243	7,911	8,550	4,013	732	65,088

2. その他

- 4月1日～2日 徳川慶喜展の飾付に小林学芸部長が京都高島屋へ出向。
- 4月10日 「英国ロマン派展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 4月11日 日本テレビが秀忠遺品の甲冑を取材・撮影。
- 4月14日～15日 徳川慶喜展の撤収に小林学芸部長が京都高島屋へ出向。
- 4月17日～18日 徳川慶喜展の飾付に小林学芸部長が福岡三越美術館へ出向。
- 4月26日 石川県立歴史博物館で小林学芸部長が講演。
- 4月29日、5月24日及び7月26日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 5月5日～6日 徳川慶喜展の撤収に小林学芸部長が福岡三越美術館へ出向。
- 5月8日 静岡県職業能力開発協会の総会(於クーポール会館)で小林学芸部長が講演。
- 5月10日 徳川博物館で小林学芸部長が講演。
- 5月12日 修補の茶絲威具足(伝吉宗所用)を小沢工房より搬入。
- 5月14日 徳川家康像を(株)大塚巧藝社写真部により新撮。
- 5月18日 資料飾付に小林学芸部長が戸定歴史館へ出向。
- 6月4日 出品願いに小林学芸部長が徳川宗家・徳川黎明会へ出向。
- 6月9日 出品願いに小林学芸部長が静岡県立中央図書館へ出向。
- 6月15日及び8月7日 徳川慶喜展の打ち合せに小林学芸部長が静岡アート・ギャラリーへ出向。
- 6月18日 館報及び特別展ポスター作成等の用件で小林学芸部長が(株)大塚巧藝社へ出

向。

- 6月23日 資料撤収に小林学芸部長が戸定歴史館へ出向。
- 6月27日 徳川宗家駐米送別会（於ホテルオークラ）に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 6月29日～30日 資料撤収に小林学芸部長が茨城県立歴史館へ出向。
- 7月1日 展示室・保存室の温度を23℃に変更。
- 7月2日 徳川慶喜展の返品で小林学芸部長が静岡の白鳥家へ出向。
- 7月9日 朝日エンジニアリングが空調の設備を点検。
- 7月10日 フジテレビが重文洋時計・脇指行光等を取材・撮影。
- 7月15日 日本電気・日本事務器よりの依頼で小林学芸部長が講演。
- 8月6日 能美防災が館内の設備を点検。
- 8月19日 落雷により照明・温湿度計器が一部故障（能美防災により修理）。
- 8月23日 静鉄ロープウェイ主催の慶喜遺跡見学会に協力。
- 8月26日 秋の特別展用件にて小林学芸部長が徳川宗家へ参上。
- 9月17日 NHK教育が家康像と重文目器を取材・撮影。
- 9月22日～28日 秋の特別展出品資料搬入。
- 9月30日 秋の特別展出品目録作成。
- 10月5日 SBSテレビが特別展を取材。
- 10月19日 たばこと塩の博物館の特別展「航路アジアへ」を松浦館長・小林学芸部長が視察。
- 10月23日 特別展出陳資料の返却に小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 10月27日 三嶋大社宝物館の「現代根付新作展」の開会式に松浦館長が出席。
- 11月5日～6日 特別展出陳資料の返却に小林学芸部長が静岡県立中央図書館・徳川美術館へ出向。
- 11月8日～9日 徳川慶喜展の飾付に小林学芸部長が静岡アート・ギャラリーへ出向。
- 11月11日 特別展出陳資料の返却に小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 11月27日 (財)佐野美術館前理事長山崎貞一氏の葬儀に松浦館長が参列。
- 11月30日 徳川慶喜展の撤収に小林学芸部長が静岡アート・ギャラリーへ出向。
- 12月2日 展示室・保存室の温度を20℃に変更。
- 12月26日 特別展「日本の武器武具」（於熱田神宮宝物館）の飾付に小林学芸部長が出向。
- 1月13日 能美防災が館内の設備を点検。
- 1月26日 防火訓練を実施。
- 2月12日 徳川慶喜と明治の静岡推進協議会総会（於浮月楼）に館長代理で小林学芸部長が出席。
- 2月26日 空調設備フィルター交換。
- 3月15日 静岡葵博実行委員会第一回総会（於静岡センチュリー）に館長代理で小林学芸部長が出席。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。
 徳川斉正氏（徳川博物館長、4月4日）、江間英男氏（日本テレビディレクター、4月11日）、海野治氏・高松優氏（県職業能力開発協会、4月13日）、長谷川孝徳氏・村上尚子氏（石川県立歴史博物館学芸員、4月20日及5月29日）、イアン・ボットムリー氏・アルイソン・グッピー女史（英国王立武器博物館、4月21日）、川崎文昭氏（常葉大学教授、

4月23日), 相澤賢一氏 (IEI, 4月24日, 6月8日及10月13日), 堀則雄氏 (静岡アートギャラリー館長, 4月28日) 井口信久氏 (川越市教育委員会, 5月3日, 10月31日及び12月31日), 小林秀幸氏 (NHK静岡, 5月13日), 竹本春二氏 (大塚巧藝社, 5月14日), 小田誠太郎氏 (和歌山県立博物館学芸課長, 5月20日及6月11日), 中川雅行氏 (静岡鉄道, 5月28日), 佐塚雅英氏 (日本レーベル印刷, 5月28日), 花井康延氏・杉山彰浩氏 (毎日広告社, 6月3日), 村松重治氏 (静岡新聞社事業部, 6月8日), 川合淳志氏 (NHKプロデューサー, 6月22日), 中村博司氏 (大阪城天守閣副館長, 6月24日), 宮崎憲生氏 (日本事務器静岡支店長, 6月24日), 原田昌幸氏 (文化庁文化財調査官, 6月24日), 下河芳樹氏・故光氏・御厨義道氏・松岡明子氏 (香川県教育委員会, 6月25日), 石井裕一郎氏 (NHKディレクター, 7月1日), 松崎一洋氏 (NHK事業部, 7月2日), 鈴木三貴子氏 (フリーライター, 7月3日), 日比野克彦氏 (山武ビルシステム, 7月24日), 植松俊男氏 (日通静岡美梱, 8月4日及9月8日), 牧野利行氏 (静岡南警察署, 8月4日), 黒沢脩氏 (静岡市教育委員会, 8月8日), 浅野恭氏 (中日新聞東海本社, 8月25日), 山田孝氏 (英国王立写真協会, 8月29日), 内田雅之氏 (熱田神宮宝物館学芸員, 9月7日, 12月7日及2月7日), 小池富雄氏・並木昌史氏 (徳川美術館, 9月7日~8日), 齊藤孝正氏 (文化庁美術工芸課, 9月8日及3月29日), 田形武晴氏 (日通静岡美梱, 9月8日, 18日・22日及27日), 徳永和喜氏 (黎明館学芸員, 9月12日, 1月28日及3月14日), 小林亜希子氏 (ディレクター, 9月17日), 諸越伸雄氏 (駿府ウェイブ, 9月17日), 奥出賢治氏 (名古屋城学芸員, 9月18日・26日, 11月7日及3月2日), 北岸達夫氏 (静岡市立南部図書館長, 9月18日), 北川央氏 (大阪城天守閣学芸員, 10月1日及12月1日), 松平乗昌氏 (霞会館, 10月2日・11月4日・1月5日及3月5日), 大塚允信氏 (駿府ウェイブ, 10月6日・11日及3月14日), 内田隆夫氏 (静岡アートギャラリー副館長, 10月7日), 榊玲子 (たばこと塩の博物館学芸員, 10月8日及12月5日), 広田昭由氏・木南憲一氏 (SBS報道制作局, 10月8日及び11日), 石原浩氏 (八代市立博物館学芸員, 10月14日及12月1日), 白鳥知氏 (元静岡市助役, 10月15日), 山下徹氏 (静岡新聞社文化部, 10月29日), 安本収氏 (駿府博物館学芸部長, 10月30日), 鈴木基之氏 (静岡中央高校教諭, 10月31日), 田中文雄氏 (静岡県立中央図書館, 11月3日), 萩原昭子氏 (静岡市婦人連絡会長, 11月4日), 柳田直美氏 (霞会館, 11月4日及1月5日), 阿久津久氏 (茨城県立歴史館学芸部長, 11月10日), 岩瀧幸則氏 (県地震防災安全対策事業協同組合, 11月16日), 齊藤慎一氏・飯塚春美氏 (江戸東京博物館, 11月16日), 前田匡一郎氏 (郷土史家, 11月19日), 徳川文武氏 (11月28日), 三品和広氏 (NHKプロモーション, 12月1日), 佐藤誠氏 (中部資材, 12月2日), 樋口清美氏 (フリーライター, 12月8日), 多賀頭氏 (熱田神宮宝物館, 12月25日及2月7日), 天野忍氏 (御殿場高校長, 1月2日), 鵜田孝一氏 (大塚巧藝社営業部長, 1月12日), 寺西貞弘氏・榎本邦雄氏 (和歌山市立博物館, 2月3日), 曾根勇二氏 (横浜市歴史博物館, 2月4日), 山田允樹氏 (大牟田市教育委員会, 2月4日), 茨城県利根町史編纂委員会14名, (2月4日), 辰本清隆氏・本山賢司氏 (PHP研究所, 2月13日), 杉山知太郎氏 (常葉短大講師, 2月26日), 栗田和道氏 (掛川市二の丸美術館, 2月26日), 深川行郎氏 (徳川家親族, 3月1日), 山本宏子氏 (京都文教大学, 3月4日), 豊田泰介氏 (弁護士, 3月5日), 大木速水氏 (オーズランド, 3月14日), 山田久美子氏 (立教大学教授, 3月19日)。

平成11年度

館 内 業 務

1. 特別展「徳川秀忠」

会期＝平成12年3月18日～4月18日

徳川記念財団設立準備室・静岡新聞社・SBS静岡放送と共催し、静岡県・静岡市・清水市各教育委員会の後援、(財)徳川黎明会・(財)水府明徳会・静岡葵博実行委員会・静岡鉄道株式会社の特別協力を得て開催。出品内容は徳川家康・秀忠・家光の遺品及び関係資料を約110点展示公開し、秀忠の事績と人と為りを紹介。出品協力は徳川宗家・(財)徳川黎明会・(財)水府明徳会・越葵文庫・日光東照宮・三嶋大社・清見寺・華陽院・福井運正寺・京都久昌院・長香寺・(財)駿府博物館・福井市立郷土歴史博物館・静岡県立美術館・静岡市文化財資料館等。

2. 小企画展「文様のある文化財」

会期＝平成11年10月1日～平成12年1月18日

館蔵品のうち、葵紋・桐紋・唐草・立涌・菊・鳳凰文等が装飾された漆工・金工・染織の優品約100点を展示。

3. 平常展

○会期＝平成11年4月1日～6月30日

館蔵の家康遺品を中心に約100点を展示。

○会期＝平成11年7月1日～9月30日

館蔵の優品展と題し、甲冑・刀剣・書画・調度品100点を展示。

○会期＝平成12年1月19日～3月17日

館蔵品のうちより書画・古文書を中心に展示。

4. 資料の購入

○平成11年6月28日、勝海舟の蔵品であった『和宮東下』（御門出御入興畧図御役人附）壱冊を購入した。

5. 第8回大名道具収蔵館集会

○平成11年11月5日、当館が監事となり、静岡グランドホテル中島屋を会場に開催。出席館12館（徳川美術館・彦根城博物館等）17名。研究発表は仙台市博物館高橋あけみ氏（「伊達家の家紋について」）・尚古集成館松尾千歳氏（「島津家の家紋について」）・米沢市立上杉博物館角屋由美子氏（「米沢藩上杉家の奥向について」）。尚、翌6日、当館の視察見学も行われた。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「没後100年 勝海舟と江戸東京展」

会期・平成11年4月20日～6月6日

会場・江戸東京博物館

短刀広次を出品。

○「日本の写真 1850～1945展」

会期・平成11年10月2日～11月7日

会場・姫路市立美術館

パノラマカメラを出品。

○特別展「徳川家康―関ヶ原合戦400年―」

会期・平成11年10月6日～11月8日

会場・名古屋城天守閣

重文大黒頭巾形兜・耳盥・蒔絵櫛・脇息・手拭掛・蒔絵杖、大極旗・茶絲威具足（秀忠所用）・島左近兜を出品。

○特別展「戦国の女たち―それぞれの人生―」

会期・平成11年10月9日～11月14日

会場・大阪城天守閣

薙刀國宗を出品。

○「幕末の三舟展」

会期・平成11年10月20日～11月23日

会場・静岡市文化財資料館

短刀広次を出品。

○特別展「將軍家綱・綱吉と宮廷の美」

会期・平成12年2月29日～4月9日

会場・群馬県立歴史博物館

紫絲威具足・縹絲威具足・太刀國正・稼穡図屏風・頬当・軍配・桂昌院詠草を出品。

○「NHK大河ドラマ 葵徳川三代展」

会期・平成12年3月29日～4月5日

会場・静岡松坂屋本館

徳川家康覚書・同秀忠書状・同家光和歌色紙・茄子図・黒絲威具足・越中頭形兜を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成11年5月20日

会場・静岡県立美術館

平成11年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

3. 静岡県博物館協会創立30周年記念式典

期日・平成11年10月11日

会場・静岡県立美術館

協会創立30周年記念式典が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

庶務報告

1. 平成11年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	2,831	194	806	300	326	25	4,482
5月	4,431	485	784	613	587	43	6,943
6月	1,896	61	1,360	232	282	17	3,848
7月	2,072	150	395	373	217	34	3,241
8月	3,472	588	400	728	289	18	5,495
9月	2,150	68	477	334	237	5	3,271
10月	3,445	137	1,544	394	424	11	5,955
11月	2,979	89	1,715	473	362	80	5,698
12月	1,679	98	416	253	139	35	2,620
1月	4,359	322	108	624	183	37	5,633
2月	3,757	298	389	517	333	21	5,315
3月	4,954	556	902	562	396	74	7,444
計	38,025	3,046	9,296	5,403	3,775	400	59,945

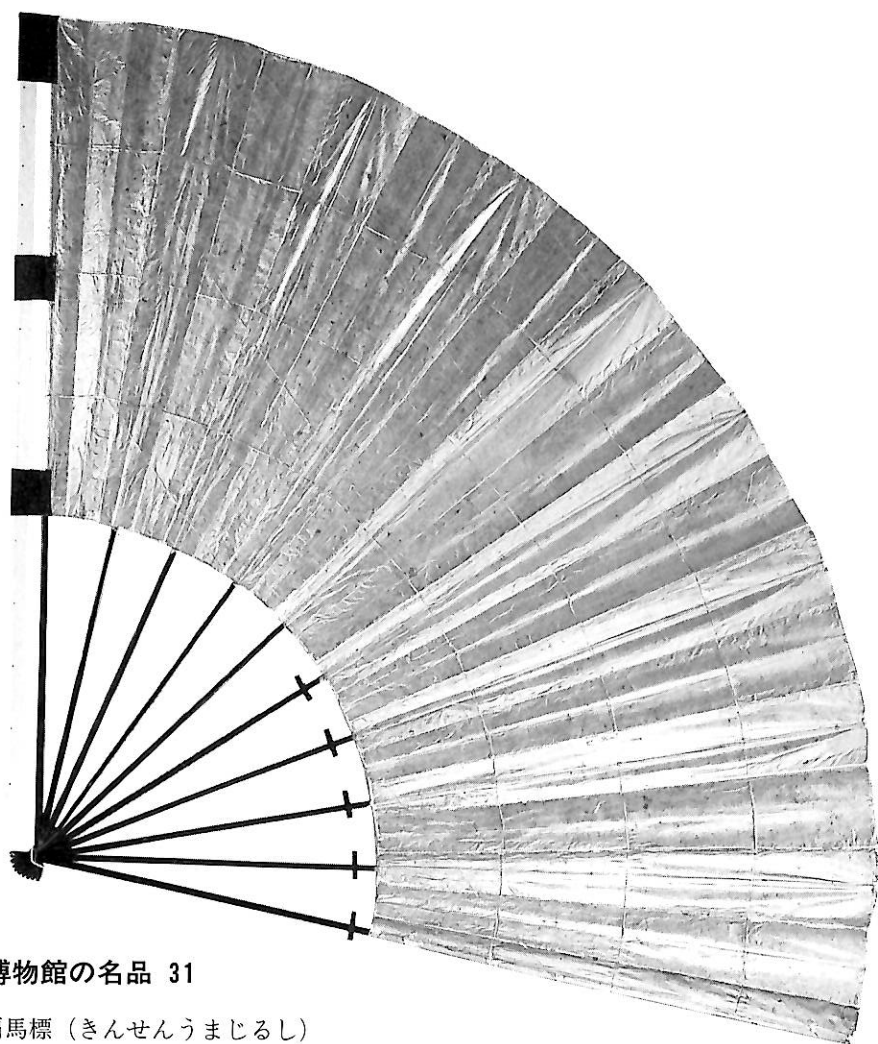
2. その他

- 4月6日 能美防災が館内の設備を点検。
- 4月16日 「勝海舟と江戸東京」展の飾付に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 4月27日、8月25日、9月6日、11月1日・30日、1月18日及び3月9日、NHK主催「葵 徳川三代展」の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 5月18日 「勝海舟と江戸東京」展の撤収に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 6月7日 熱田神宮で小林学芸部長が愛文連の依頼で講演。
- 6月25日 日本博物館協会の評議員会に松浦館長が出席。
- 6月30日に華陽院・駿府博物館、7月15日に水府明徳会、同月23日に彦根城博物館、同月24日に長香寺・久昌院、同月26日に清見寺、同月30日に日光東照宮、9月10日に福井市立郷土歴史博物館・越葵文庫・運正寺、同月16日に徳川黎明会、同月25日に三嶋大社宝物館、11月24日に渡辺家・波多野家及び12月15日に青山家に特別展の出品願いに小林学芸部長が出向。
- 7月4日 徳川記念財団設立の件で落合副館長・小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 7月9日 展示室・保存室の温度を22℃に変更。
- 7月19日 朝日エンジニアリングが空調の設備を点検。
- 7月29日 能美防災が館内の設備を点検。
- 8月19日 徳川宗家（徳川記念財団設立準備室）との事業協力の誓約が交わされた。

- 9月3日 NHK大阪放送局が重文和剤局方と乳鉢乳棒を撮影。
- 9月9日 「ラファエル・コラン展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 9月21日、2月14日及び21日、特別展用件で小林学芸部長が静岡新聞社事業部へ出向。
- 10月4日 テレビマンユニオンが重文洋時計・目器・鉛筆・けひきばしを取材・撮影。
- 10月25日 愛文連一行20名が来館。
- 11月25日 「幕末の三舟展」の撤収に小林学芸部長が静岡市文化財資料館へ出向。
- 11月26日 館内の温度を20℃に変更。
- 12月5日 町田市立博物館友の会一行50名が来館。
- 12月20日 特別展出陳の資料点検に小林学芸部長が徳川宗家に出向。
- 12月26日 TBSが重文洋時計を取材・撮影。
- 1月25日 館内のハロンガスを点検。
- 1月26日 防火訓練を実施。
- 1月28日 空調設備のフィルター交換。
- 2月10日 テレビマンユニオンが資料撮影。
- 2月22日 NHK主催「葵 徳川三代展」用務で小林学芸部長が奈良国立博物館へ出向。
- 2月23日 テレビマンユニオンが重文目器・鉛筆・鋏・けひきばしを取材・撮影。
- 2月24日～25日、3月1日～3日及び9日～12日・17日、特別展出品資料借用に小林学芸部長が静岡・清水・三島・京都・福井・名古屋・東京・日光・水戸へ出向。
- 2月27日～28日 出陳物飾付に小林学芸部長が群馬県立歴史博物館へ出向。
- 3月3日 NHK静岡が家康像及び重文洋時計・目器・鉛筆・刀架を取材・撮影。
- 3月18日 静岡新聞社文化部記者木村力氏が特別展を取材。
- 3月21日 SBSテレビ西村記者が特別展を取材。
- 3月24日 電話及び展示室監視モニターを修理。
- 3月27日 NHKの特別展用の資料を撮影。SBSテレビ朝原ひとみ記者が特別展を取材。故栗原澄子女史の葬儀に落合副館長が参列。
- 3月29日 NHK大河ドラマ展の飾付に小林学芸部長が静岡松坂屋へ出向。
- 3月30日 上記展覧会の開催式に松浦館長が出席。SBSラジオ松山祐子キャスタードライバーが特別展を取材。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

槍田明氏等80名(横須賀海軍通信学校第66期同期会, 4月12日), 近松鴻二氏(江戸東京博物館, 4月13日及び6月14日), 塩澤藤男氏(登呂博物館次長, 4月16日), 徳川義宣氏(徳川美術館長, 4月17日), 鶴田孝一氏(大塚巧藝社営業部長, 4月17日, 1月12日及3月27日), 河野豊彦氏(小野田市歴史民俗資料館長, 4月26日), 井口信久氏(川越市教育委員会, 5月2日, 12月31日及び3月19日), 英傑会25名(5月8日), 緒方宏大氏(凸版印刷学芸員, 5月19日), 柳田直美氏(霞会館資料展示委員会, 5月27日及3月17日), 古谷未来氏(同上, 5月27日), 古澤勝幸氏(群馬県立歴史博物館, 5月27日), 佐藤誠氏(中部資材, 6月10日), 大柳英人氏(静岡葵博実行委員会, 6月12日), 落合則子氏(江戸東京博物館, 6月14日), 福原章皓氏(元静岡県史編さん室, 6月26日), 松下辰夫氏・牧野豊氏(静鉄観光サービス, 7月21日), 高瀬晴之氏(姫路市美術館学芸員, 7月21日及9月24日), 植松俊男氏(日通静岡美梱, 7月21日), 長谷川博美氏(NHKイベントプランナー, 7月22日), 沼田晃佑氏(身延山大学図書館, 8月5日), 黒

田尚彦氏（NHK大阪ディレクター，8月5日及9月3日），城戸直和氏（湊川神社宝物殿学芸員，8月6日），遠藤一男氏（駿府ウェイブ副会長，8月7日），宮本裕次氏（大阪城天守閣学芸員，8月9日及11月18日），福村芳博氏（日本映画監督協会，8月10日），中野真里氏（東海ビデオシステム，8月10日及9月5日），渡辺明夫氏・御厨義道氏（香川県歴史博物館，8月12日），市原寿文氏・角替弘志氏・向坂鋼二氏・矢島国雄氏・村上公彦氏・井戸一美氏（静岡県総合歴史博物館基本構想検討委員会，8月18日），加藤有次氏（同上，8月18日及3月29日），新田実氏（元静岡県史編さん室，9月4日），赤川工氏（NHK静岡ディレクター，9月22日），塚原明子氏（名古屋城学芸員，9月30日及11月18日），跡部信氏（大阪城天守閣学芸員，9月30日），熊谷喜一氏・大塚修一氏（テレビマンユニオン，10月4日），菅沼清彦氏（静岡新聞社記者，10月5日），村中正裕氏（日立超LSシステムズ，10月8日），伊良原正己氏（静岡葵博実行委員会，10月12日），太田氏（静岡市文化財資料館長，10月15日及12月1日），小山晃氏（東京芸術プロジェクト，10月16日），内田雅之氏（熱田神宮宝物館学芸員，10月25日），竹内礼子氏（「静岡の文化」編集部，10月25日），磯部義隆氏（林原美術館事務局長，11月6日），菊池紳一氏（前田育徳会主幹，11月6日），佐藤満雄氏（成巽閣館長，11月6日），塩田誠一郎氏（香川県歴史博物館長，11月6日），松尾千歳氏（尚古集成館，11月6日），母利美和氏（彦根城博物館，11月6日），渡辺恒一氏（同上，11月6日），高橋あけみ氏（仙台市博物館，11月6日），角屋由美子氏（上杉博物館，11月6日），植野かおり氏（御花史料館，11月6日），柴崎直樹氏（毛利博物館，11月6日），平瀬礼太氏（姫路市立美術館，11月11日），坂田篤則氏（静岡市広報課，11月18日・27日及12月14日），船戸高志氏（名古屋城，11月18日），内田隆夫氏（静岡アートギャラリー副館長，11月20日），野本亮氏（高知県立歴史民俗博物館，11月26日），川松康人氏（町田市立博物館，12月5日），山下善也氏・飯田真氏・森充代氏（静岡県立美術館，12月8日），高梨純次氏（滋賀県立近代美術館，12月8日），福田徳郎氏（弘済出版，12月21日），中原茂樹氏（TBS，12月24日及26日），徳川義正氏（12月31日），中村則正氏（NEO建築設計室所長，1月7日），津川雅彦氏（俳優，1月8日），土井弘子氏（グランパパプロ，1月8日），佐野和史氏（瀬戸神社宮司，1月20日），高橋克伸氏（和歌山市立博物館主任学芸員，1月20日），河野修治氏（松坂屋静岡店，2月10日），西条道文氏（同上，2月10日，3月5日及29日），大貫昇氏（テレビマンユニオン，2月10日），堀沢光栄氏（姫路市立美術館学芸課長，2月19日），高岡哲郎氏（慶喜油絵照会，2月19日），佐野達也氏（テレビマンユニオン，2月19日及び23日），小池浩平氏（群馬県立歴史博物館学芸員，2月20日・21日），松平乗昌氏（霞会館資料展示委員会副委員長，2月21日及3月17日），落合徹氏（県生活文化部主査，2月24日），黒沢脩氏・水上幸子氏（静岡葵博実行委員会，3月6日），星野藤雄氏（日光東照宮，3月14日），奥出賢治氏（名古屋市博物館，3月18日），安本収氏（駿府博物館学芸部長，3月20日），大倉基佑氏（大倉集古館，3月20日），立松由美子氏（豊田町香りの博物館，3月20日），須藤茂樹氏（徳島城博物館学芸員，3月23日），北見登氏（大塚巧藝社写真部，3月27日），小平市郷土研究会27名（3月29日）。



博物館の名品 31

金扇馬標（きんせんうまじるし）

戦国時代に指物（さしもの）や昇り旗と並び盛行したものに馬標（馬印・馬験とも書く）がある。戦陣に於ける主將の所在と意志とを示す独創性豊かな長柄の作りもので、豊臣秀吉の瓢箪（ひょうたん）に金の切裂（きりさき）と並んで徳川家康の金の開き扇（以下金扇とする）は特に名高く、後世の史書や合戦図に多くみられる。

元来、金扇馬標は複数あったと考えられるが、大坂の陣に用いたものは幕末の兵火で烏有に帰して遺らず、現存するのは徳川家の伝家の料として江戸城に置かれ、将軍家茂の征長出陣にも使われたと解されるもので、その仕立、法量の全容を紹介すると、竹製の五本塗骨（五本骨は慣用語）に美濃紙を地紙として練絹（ねりぎぬ）の上に貼り、内面に金箔を施して三ヶ所に黒章の乳章を設けている。全長は221cm、重量は1900gあり、これを掲げる竿（さお）は欠失しているが、『遠国御武器類』所収のものと同一と考えれば、573cmあったから、この馬標を持ち歩く足輕は、恐らく二人か三人で交代したものとみられるが、豪勇の者であったにちがいない。

明治27年4月30日、徳川家達奉納



博物館の名品 32

重要文化財 銀地毛彫文耳盥（ぎんじけぼりもんみみたらい） 2口

重要文化財 銀被葵紋散手拭掛（ぎんかぶせあおいもんちらしてぬぐいかけ） 1基

近世、小袖の常用により角盥（つのだらい）の角の痕跡だけを残した盥を、耳のような把手を左右に配するところから耳盥と呼ぶ。

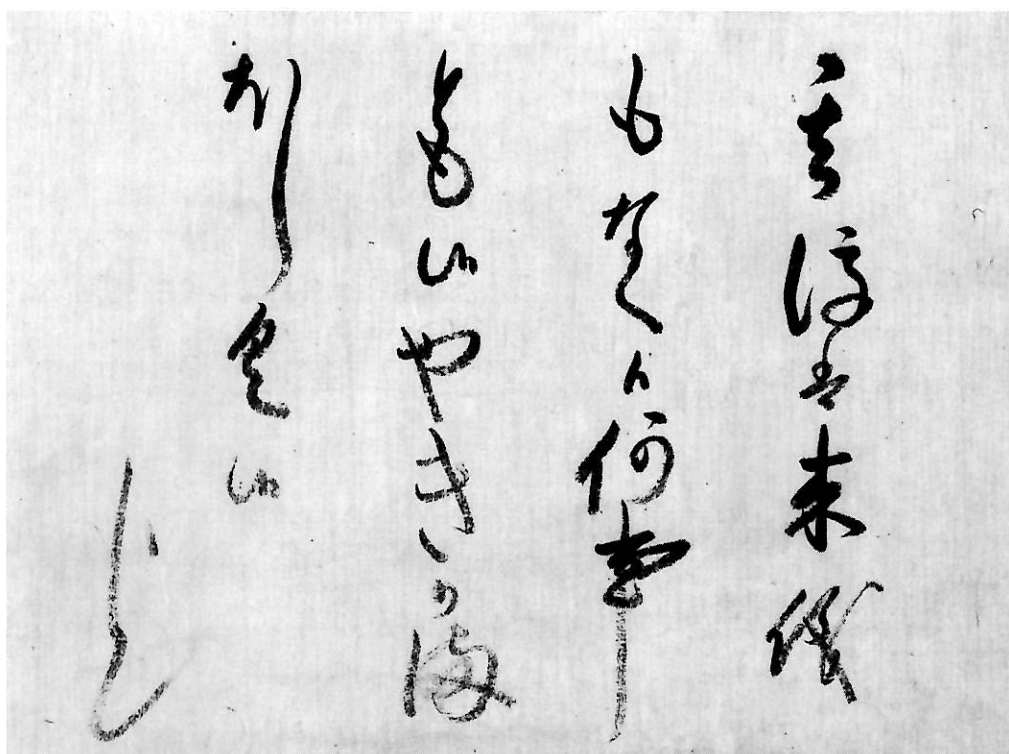
この耳盥は徳川家康が水を注がせ手を洗うのに用いたものである。大なる方は、銀打出で側面上部には七宝繫地に上り藤紋を散らし、腰下に花先形魚子地唐草文を線刻し、高台と耳をとともに七宝繫彫としたもの。小なる方も銀打出で総体に魚子地唐草文彫とし、高台に花菱唐草文を、側面には大きな葵丸紋を散らしている。

家康の手洗道具には耳盥の他に手拭掛もある。二本の細い角柱を刳形付の台部に差込み、上部に両端がわずかばかり反った架木をわたし、中央と下部にも差込み式の棧を付けている。桎木製で黒塗の台の底部を除き、総体に七宝繫葵紋散彫の銀をかぶせ、要所に銀唐草葵紋彫の金具を打っている。

銀地毛彫文耳盥（大）口径25.1cm 胴径28.0cm 高14.1cm 重量1700g

（小）口径17.3cm 胴径17.0cm 高 9.3cm 重量 400g

銀被葵紋散手拭掛 架木長60.5cm 総高57.5cm 重量2250g



博物館の名品 33

徳川秀忠自筆消息（とくがわひでただじひつしょうそく） 1 幅

其後は来儀
もなく候何事
とも候やきかま
ほしく候
かしく

書翰の中で、私文書を書状、消息と呼ぶが、発信・受信者が女性である場合には、消息と称することが多く、文の書き止めを「かしく」とするのを例としている。

この宛所を欠く秀忠の消息文は、親しき人の安否を気遣う秀忠の優しい人柄を窺わせ、豊麗で味わい深い筆蹟は、將軍としての威厳と気品に満ちている。

秀忠は幼年より書を能くし、常に王義之（おうぎし）の『聖教序』を臨本に用いていたという。仮名書風も律義で生真面目な性格をよく表している。

楮紙 縦30.7cm 横41.0cm

明治15年1月 梅沢敏永他奉納

久能山東照宮博物館報
—— 第 16 号 ——
平成12年 9 月10日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市根古屋390
TEL.054(237)2437